

国道18号上田バイパス事業概要

～地域の発展を願った半世紀の想いを上田バイパスとともに繋ぐ～



国道18号上田バイパス概要



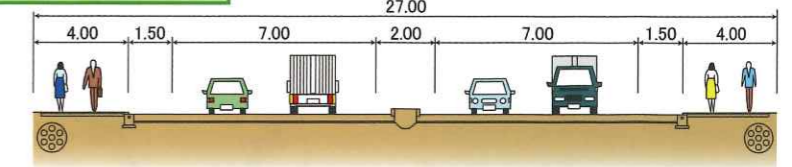
上田バイパスとは

昭和46年10月4日に都市計画決定され、昭和47年度より事業着手し、昭和62年度までに上田市上塩尻から住吉までの延長約5.6kmを供用しました。その後、平成3年度より事業を休止していましたが、平成12年度から住吉から国分までの延長約1.8kmの事業を再開し、平成20年度に供用しました。現在は、国分から東御市本海野まで延長約4.1kmの事業を進めています。

平面図



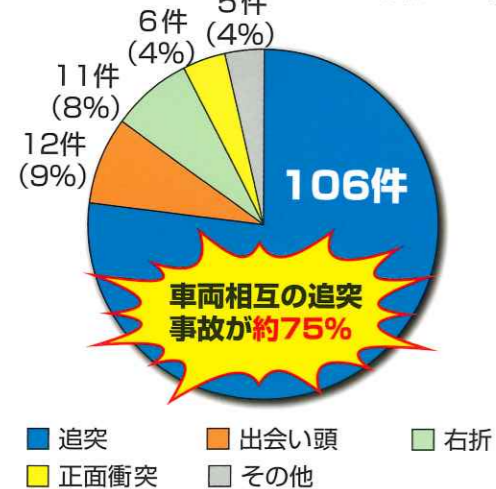
標準横断面図



国道18号の事故状況

H28～R2(和信号～国分西信号まで)

発生件数:140件



上田バイパス開通の効果

①交通渋滞の緩和

国道18号から上田バイパスへの交通転換により、通勤帰宅時間帯の慢性的な渋滞の解消が期待されています。

②交通事故の減少

上田バイパスの開通で、国道18号の交通量が減少し交通事故の削減が見込まれています。

③沿線地域の活性化

上田バイパスの整備により、交通の利便性が高まり、大規模小売店等企業の参入による沿線地域の活性化が期待されています。

計画予定平面図

